

## 第2節 自主的取組の拡大

### ■ 現状と課題

- 本県の良好な環境を保全していくためには、県民や民間団体、事業者において、様々な場面で環境保全に向けた自主的な取組が重要であるとともに、県民・地域・民間団体・企業などの連携・協働が必要です。
- 森林環境問題に注目が集まる中、県民の森林づくりへの関心の高まりに対応して、活動参加者への支援が必要です。
- 高齢化や人口減少が進む農村地域において、地域コミュニティ機能の低下により、農地、農業用水等の地域資源の保全管理が困難となってきました。このため、水源のかん養や農村景観の形成等、農業・農村の持つ多面的機能の維持・発揮への取組が求められています。
- 「自分達の地域の環境は自分で守っていく」という考え方に基づいて、地域住民が自ら行う道路や河川等公共施設の美化活動を促進することが必要です。
- 環境マネジメントシステムである国際規格ISO14001については、大企業を中心に認証取得が進んでいますが、国内外の取引において認証取得が重要視されることが多くなっていることから、中小企業への取得拡大が求められています。
- 環境に関する事業所アンケート結果では、事業所の48.0%が「環境保全活動に関して地域社会へ協力している。」と回答しています。

### ■ 方向性

- 県民、NPOやボランティア団体、事業者などの各主体が、環境問題への取組を自らの問題としてとらえ、自発的に行動を起こせるような場の提供や機会づくりを行います。
- 「環境サポートセンター」において、県民が主体的に活動できるよう環境教育や環境学習の参考となる情報や環境学習資料を提供します。
- 「森林ボランティア支援センター」において、情報の収集・発信や技術指導、森林整備作業器具の貸出しなど、森林ボランティア活動に対する一体的なサポートを行います。
- 農業者や地域住民等による活動組織が取り組む、地域資源の維持・保全のための協働活動を支援し、多面的機能の発揮を図ります。
- 地域住民が自ら行う、美しく住みよい地域づくり活動を促進します。
- 企業等と地域・学校との連携・協働を行うため、それぞれの活動について情報を発信、共有する場を整備します。
- 制度融資により、ISO14001認証取得を目指す中小企業や施設整備等を行うNPO法人に対して支援を行います。
- 環境に関する新技術・新製品の開発や事業化において、事業者の自主的な取組を支援します。
- 県自らが事業者として、県事務・事業に伴う環境負荷の低減に取り組みます。

## ■ 施策展開

### ① 県民・民間団体の取組への支援

- ◆環境サポートセンターの運営【環境政策課】(再掲)
- ◆環境アドバイザー登録、支援、活躍【環境政策課】(再掲)
- ◆発達に応じた環境学習プログラムの作成・運用【環境政策課】
- ◆自主的な取組に対する顕彰(群馬県環境賞)【環境政策課】
- ◆森林ボランティア等推進【緑化推進課】
- ◆ぐんま緑の県民基金事業(森林ボランティア支援)【緑化推進課】
- ◆多面的機能支払交付金の推進【農村整備課】
- ◆花と緑のクリーン作戦【都市計画課】
- ◆河川愛護団体への活動支援【河川課】
- ◆自治会等河川草刈り作業委託【河川課】
- ◆道路愛護団体への活動支援【道路管理課】
- ◆制度融資【県民生活課】

### ② 事業者の取組の促進

- ◆環境にやさしい買い物スタイルの普及【環境政策課】(再掲)
- ◆企業等と地域・学校の環境学習連携・協働【環境政策課】(再掲)
- ◆環境影響評価【環境政策課】
- ◆制度融資【環境政策課、商政課】(再掲)
- ◆ISO14001認証取得支援【商政課】(再掲)
- ◆環境新技術の導入促進【環境政策課】
- ◆ぐんま新技術・新製品開発推進補助金【工業振興課】

### ③ 行政が行う自主的取組

- ◆群馬県地球温暖化対策実行計画(事務事業編)の実施【環境エネルギー課】

## ■ 全ての主体が参加する環境保全の取組 数値目標

指標	単位	現状		目標	
		年度	数値	年度	数値
動く環境教室受講者数	人/年	H26	4,619	H32	5,000
環境アドバイザー登録者数	人	H26	292	H32	400
ぐんま環境学校(エコカレッジ) 修了者数	人/年	H26	21	H32	30
森林環境教育参加者数	人/年	H26	6,530	H30	7,000
森林環境教育指導者数(活動登録者)	人	H26	38	H30	138
環境教育研修講座受講者数	人/年	H26	12	H31	20
尾瀬学校等による自然環境学習の 実施率(再掲)	%	H27	54.4	H31	100
森林ボランティア団体会員数(再掲)	人	H26	4,968	H31	5,500

